

# 令和2年度 発達支援相談事業経過報告 (令和2年12月末時点)

※R1年度実績数はR1年12月末時点

## 1. 早期発見、早期フォロー体制の継続

### ◎5つの専門相談

発達相談(心理士による相談)・OT相談(作業療法士による相談)・ことばの相談(言語聴覚士による相談)・発達クリニック及び発達支援クリニック(小児科医による相談)を実施。

緊急事態宣言で4/20～5/30まで事業中止(61件うち来所18件)電話対応で引き続きの相談を延期しながら実施。

作業療法士1名が育児休暇中で、実績数は主にOT相談が減少傾向(表1)。

心理士2名体制(うち1名新規会計年度任用職員)で実施。乳幼児健診1.8健診での相談の見直しのため減(表3)

相談利用児の年齢は、就学前の割合が高い傾向は例年と同様である(表2)。

### ◎遊びの教室(小集団親子教室:就園前の児童と保護者が対象)

新型コロナウイルス感染防止のため事業を6月から実施。全9回1クール(A・Bチーム各9回)開催予定の7回目まで実施。Aチーム7組・Bチーム4組の参加があった(計11組)。内8組が何らかの発達支援相談を利用中である。3組に療育の紹介を行い、2組が療育に繋がった。

### ◎のびのび教室(保護者が子どもの行動の見方を学ぶプログラム)

発達支援相談を利用している保護者に案内し、2クール実施。(1クール2名、現在2クール目3名実施中。)

子どもをほめる関わり方を積極的に学ぶ保護者の姿があり、実生活で具体的にどう対応するのがよいかなど、多くの質問もあった。

### ◎母子保健事業との連携

ケースや乳幼児健診を中心に連携を実施。専門相談・遊びの教室・園巡回相談等は、保健医療課の協力のもとで実施ができており、早期発見・早期支援にとって重要な連携先となっている。

(表1) 発達支援相談利用者数

年度	実人数			相談別人数											
	男子	女子	合計	発達相談		OT相談		言語相談		発達クリニック		発達支援クリニック		相談参加	
				実	延	実	延	実	延	実	延	実	延	実	延
R1年度	204	80	284	165	194	198	269	55	76	5	10	4	4	427	553
R2年度	172	60	232	138	148	144	171	43	56	4	4	4	10	333	389

(表2) 年齢別相談実人数

	0才児	1才児	2才児	3才児	4才児	5才児	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	中1	中2	中3	高1	高2	高3	
R1年度	8	19	42	51	62	57	25	11	5	4	0	0	0	0	0	0	0	0	
(割合)	3.4%	8.2%	18.1%	22.0%	26.7%	24.6%	10.8%	4.7%	2.2%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	84.2%						15.8%												
R2年度	8	14	27	47	44	59	14	7	3	5	1	1	1	1	0	0	0	0	
(割合)	3.4%	6.0%	11.6%	20.3%	19.0%	25.4%	6.0%	3.0%	1.3%	2.2%	0.4%	0.4%	0.4%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	85.8%						14.2%												

(表3)相談経路別実人数

	経過者	保護者	健診	保健師	保・幼	学校	保健所	その他	健診				
									乳児前期	乳児後期	1.8健診	2.5健診	3.5健診
R1年度	168	16	64	2	30	1	0	3	0	5	17	25	17
(割合)	72.4%	6.9%	27.6%	0.9%	12.9%	0.3%	0.0%	1.3%	0.0%	7.7%	39.5%	58.1%	39.5%
R2年度	166	4	43	2	12	1	0	4	0	5	9	14	15
(割合)	71.6%	1.7%	18.5%	0.9%	5.2%	0.4%	0.0%	1.7%	0.0%	11.6%	20.9%	32.6%	34.9%

(表4)発達支援相談の最終フォロー人数

	相談継続	終了	
		医療紹介	終了
R1年度	191	22	71
(割合)	67.3%	7.7%	25.0%
R2年度	137	14	81
(割合)	59.1%	6.0%	34.9%

## 2. 児童発達支援事業の体制整備

関係機関と連携をとりながら、随時受け入れ体制の調整を行った。  
その他、別紙資料参照(つくし園より報告。)

## 3. 保育所・幼稚園巡回相談事業と学童期への連携の継続

園巡回の実績数は園部が増加。他は昨年と同傾向(表5)。  
昨年、運動プログラムの要望が多かったが、事業整理をしたため減少している。  
学童期連携の実績は、昨年度と同傾向(表6)。

(表5)園巡回相談数

	園部		八木		日吉		美山		合計		運動プログラム
	園数(延)	児延数	園数(延)	児延数	園数(延)	児延数	園数(延)	児延数	園数(延)	児延数	
R1年度	8	49	5	19	6	25	4	26	23	119	35
R2年度	12	86	4	13	6	30	5	24	27	153	18

(表6)学童期への連携数 (個別相談後の新小学校・中学校入学児童ケース連携・参観:小学校及び放課後児童クラブ)

	合計	
	巡回数(延)	児童数(延)
R1年度	26	135
R2年度	27	141

#### 4. 就学後の支援体制の継続

放課後児童クラブ、学校巡回を実施。実績数は昨年度より微増(表7)。

(表7) 就学後支援数 (新小学校・中学校入学児童以外)

	合計	
	巡回数(延)	児童数(延)
R1年度	8	16
R2年度	10	19

#### 5. 関係機関との連携の継続

支援ファイルと移行支援シートを配布。  
病院同伴受診、ケース会議等を通じて情報共有を実施。

(表8) 支援ファイル配布数

	中学生	小学生	5歳児	4歳児	3歳児	2歳児	1歳児	計
R1年配布数	0	0	4	0	0	0	0	4
R2年配布数	0	1	6	0	0	0	0	7
全保有数	7	98	34	9	2	1	0	151

(表9) 移行支援シート活用数

	保育所→小学校	小学校→中学校	中学校→高校
R1年配布数	5	0	0
R2年配布数	6	1	6